# 宇宙基本計画工程表改訂に向けた提案

令和８年（2026年）１１月１６日

宇宙航空研究開発機構

宇宙科学研究所

有人宇宙技術部門

国際宇宙探査センター

# 8章における主な工程表改訂に係る変更提案

宇宙基本計画工程表の改訂に向け、８章についてJAXAとして変更が必要と考えるポイントを以下に示す。（参考：次頁以降に線表の現状版を示す）

関連項目：（３）宇宙科学・探査における新たな知と産業の創造
８　宇宙科学・探査

**【８　宇宙科学・探査】**

**◆　打上げ・運用等にかかる変更**

① X線分光撮像衛星（XRISM）の運用期間延長　FY2026　→　FY2029へ延長
② 系外惑星大気赤外線分光サーベイ衛星計画（Ariel）の打上げ年度変更　FY2029　→　FY2031打上げ
③ はやぶさ２拡張ミッションの変更　FY2031の小惑星到達→FY2028小惑星フライバイ
④ 高感度太陽紫外線分光観測衛星（SOLAR-C）打上げ年度変更　FY2028→FY2031打上げ

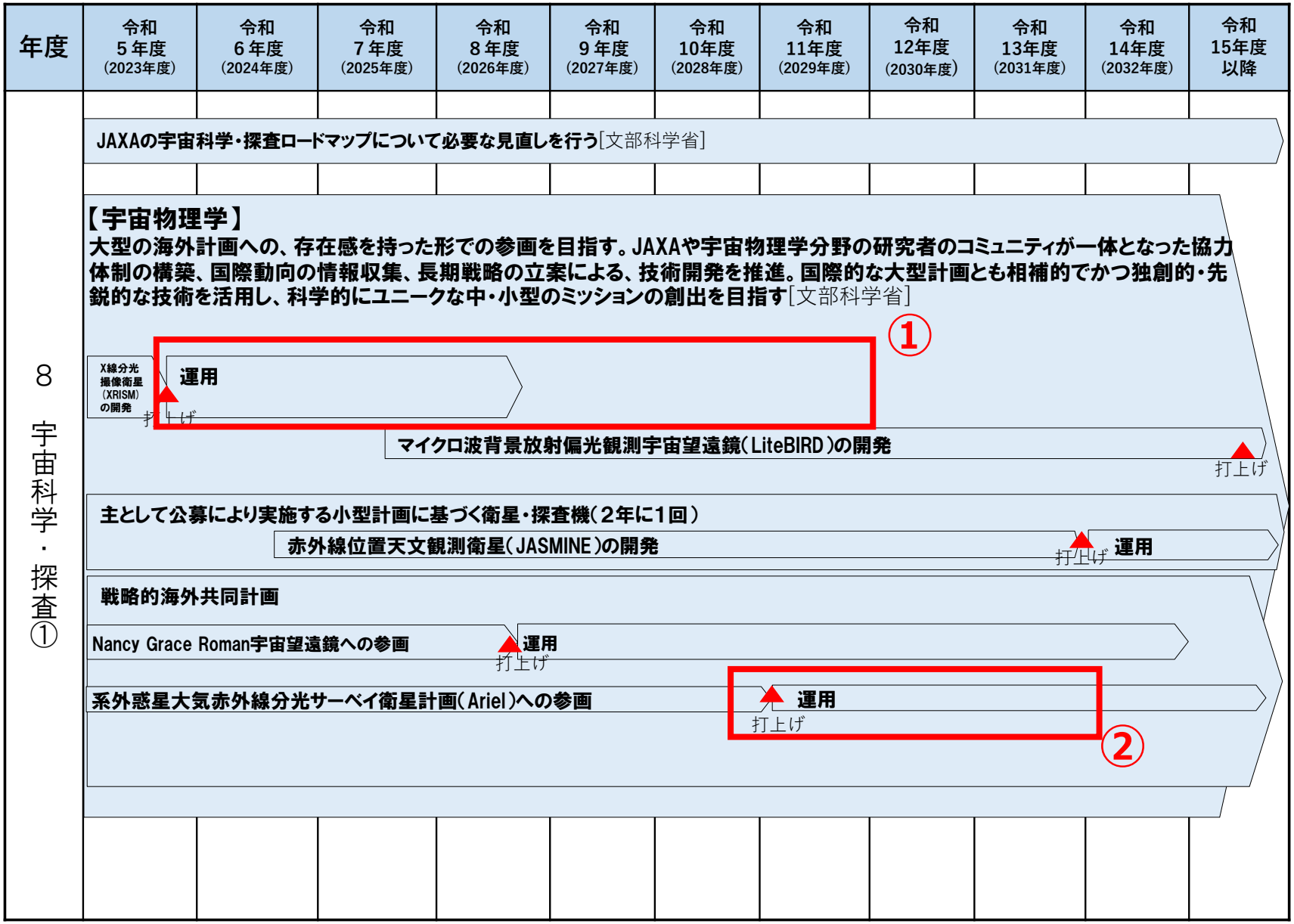
**◆　検討の変更と追加**

⑤ 次世代サンプルリターン（NGSR）計画　の概念検討の追記
⑥ 惑星探査小型実験機（OPENS-0）の概念検討期間の変更　FY2026　→　FY2027
⑦ 火星本星着陸探査プログラムSTEP１　の概念検討の追記

# 参考（工程表改訂　JAXA案）

現行版
変更提案箇所表示

（３）宇宙科学・探査における新たな知と産業の創造



# 参考（工程表改訂　JAXA案）

現行版
変更提案箇所表示

## （3）宇宙科学・探査における新たな知と産業の創造

| 年度 | 令和5年度（2023年度） | 令和6年度（2024年度） | 令和7年度（2025年度） | 令和8年度（2026年度） | 令和9年度（2027年度） | 令和10年度（2028年度） | 令和11年度（2029年度） | 令和12年度（2030年度） | 令和13年度（2031年度） | 令和14年度（2032年度） | 令和15年度以降 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 8 宇宙科学・探査② | | | | | | | | | | | |

**【太陽系科学】**

**彗星などの海外主導大型の探査計画の中核での参画の検討**[文部科学省]

**小型衛星・探査機等の開発等の機会を活用した特任助教（テニュアトラック型）の制度の運用／多様な小規模計画の着実な実行及びその機会を活用した人材育成**

**太陽観測・太陽圏科学分野における先鋭的な観測技術・手法の検討。アルテミス計画との連携を視野に入れた月及び火星に関する科学的成果の創出及び技術面での先導的な貢献**[文部科学省]

**アルテミス計画の機会（有人与圧ローバの活用を含む）を活用した「月面における科学」の具体化**[文部科学省]

**「月面における科学」の研究の実施、小型月着陸実証機（SLIM）技術を維持・発展させた月探査促進ミッションと、可能な限りの民間サービス活用を検討**[文部科学省]

**火星本星の探査について、2040年代までの長期的視点を持って、産学のリソースを最大限に活用して、我が国の独創的・先鋭的な着陸技術・要素技術等の発展・実証を目指す。また、火星本星の探査を検討**[文部科学省]

⑦

**小天体・彗星、外惑星を探査する次期ミッションの対象や手法についての具体的な検討**[文部科学省]

**はやぶさ2の運用**

**サンプルの継続的な分析**

**新たな小惑星の探査等の拡張ミッションの実施**

▲ 小惑星フライバイ

▲ 小惑星到着

③

# 参考（工程表改訂　JAXA案）

## （3）宇宙科学・探査における新たな知と産業の創造

**現行版**
**変更提案箇所表示**

| 年度 | 令和5年度（2023年度） | 令和6年度（2024年度） | 令和7年度（2025年度） | 令和8年度（2026年度） | 令和9年度（2027年度） | 令和10年度（2028年度） | 令和11年度（2029年度） | 令和12年度（2030年度） | 令和13年度（2031年度） | 令和14年度（2032年度） | 令和15年度以降 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|

8 宇宙科学・探査③

**【太陽系科学】**
**小天体探査については、「はやぶさ」シリーズで獲得した世界でのリーダーとしての地位の維持・向上を図る。探査機を更に高度化し、サンプルリターンを行う次世代の小天体探査のミッションの対象や手法について具体的な検討を行う。**[文部科学省]

**戦略的に実施する中型計画に基づく衛星・探査機等（10年で3回）**

- **火星衛星探査計画（MMX）の開発**　打上げ　**運用**　**サンプルの継続的な分析**　地球帰還
- **水星磁気圏探査機「みお」（MMO）の運用**　水星到着
- ⑤

**主として公募により実施する小型計画に基づく衛星・探査機（2年に1回）**

- 小型月着陸実証機（SLIM）の開発研究　打上げ　運用・着陸データ解析等
- **深宇宙探査技術実証機（DESTINY⁺）の開発**　打上げ　**運用**　④
- **高感度太陽紫外線分光観測衛星（SOLAR-C）の開発**　打上げ　**運用**
- **惑星探査小型実験機（OPENS-O）概念検討**　⑥

**戦略的海外共同計画**

- **木星氷衛星探査計画（JUICE）の運用**　木星到着
- 二重小惑星探査計画（Hera）への参画　打上げ　**運用**　小惑星到着
- **長周期彗星探査計画（Comet Interceptor）への参画**[文部科学省]　打上げ　**運用**
- **土星衛星タイタン離着陸探査計画（Dragonfly）への参画**　打上げ　**運用**
- **地球接近小惑星アポフィス探査計画（RAMSES）への参画**　打上げ　**運用**　接近・観測

**重要技術の開発（重要技術の特定、技術の高度化・最先端技術の開発・蓄積、フロントローディングの実施）**

**宇宙戦略基金による技術開発支援（再掲）**
[内閣府、文部科学省]

# 9章・10章における主な工程表改訂に係る変更提案

宇宙基本計画工程表の改訂に向け、９章、１０章についてJAXAとして変更が必要と考えるポイントを以下に示す。（参考：次頁以降に線表の現状版を示す）

関連項目：（３）宇宙科学・探査における新たな知と産業の創造
９　月面における持続的な有人活動
１０　地球低軌道活動

## 【９　月面における持続的な有人活動】

① ゲートウェイ居住棟への我が国が強みを有する技術機器の提供（ゲートウェイの運用・利用）及びゲートウェイ補給機によるゲートウェイへの物資輸送について、2026年3月のNASAからの計画見直しに関する発表を受け対応中であることの注記を入れる。

② 令和9年度より、将来の月面有人活動に資するインフラ構築に向け、月面機器開発・実証支援を追加する。

## 【１０　地球低軌道活動】

③ HTV-X２号機以降の打上げ時期について、国内外の関係機関との調整状況を踏まえ変更。

④ ポストISSの地球低軌道活動の在り方の検討について、国内での検討状況を踏まえ2027年度まで延長。

# 参考（工程表改訂　JAXA案）

現行版
変更提案箇所表示

| 年度 | 令和5年度（2023年度） | 令和6年度（2024年度） | 令和7年度（2025年度） | 令和8年度（2026年度） | 令和9年度（2027年度） | 令和10年度（2028年度） | 令和11年度（2029年度） | 令和12年度（2030年度） | 令和13年度（2031年度） | 令和14年度（2032年度） | 令和15年度以降 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|

9　月面における持続的な有人活動①

【国際パートナーや民間事業者と連携した持続的な月面活動】

**米国提案の国際宇宙探査計画（アルテミス計画）への参画**［内閣府、文部科学省等］

- **ゲートウェイ居住棟への我が国が強みを有する技術・機器の提供**
- **ゲートウェイの運用・利用** ①
- **HTV-XによるISSへの物資補給機会を活用した技術実証**
- **ゲートウェイ補給機による ゲートウェイへの物資輸送**（打上げ）
- **月面探査を支える移動手段（有人与圧ローバ）に関する開発研究**
- **運用**（打上げ）
- **車輪や走行系等の要素技術の開発研究・技術実証**
- **着陸地点の選定等に資する月面の各種データや技術の共有**
- **月極域探査機（LUPEX）の開発**
- **運用**（打上げ）

**持続的な活動に不可欠なインフラ（測位通信、資源探査・採掘利用・電力供給、無人建設、食料生産）の研究開発**［内閣府、国土交通省、総務省、文部科学省、経済産業省、農林水産省等］

- **宇宙開発利用加速化戦略プログラム（スタードストプログラム）による基盤技術開発**
  ［内閣府、国土交通省、総務省、文部科学省、経済産業省、農林水産省等］
- ②

**宇宙戦略基金による技術開発支援（再掲）**
［内閣府、総務省、文部科学省］

# 参考（工程表改訂　JAXA案）

現行版
変更提案箇所表示

